

むつごろう通信

24号

2014年

9月30日発行

特任准教授の田中源吾です。よろしくお願ひ致します。

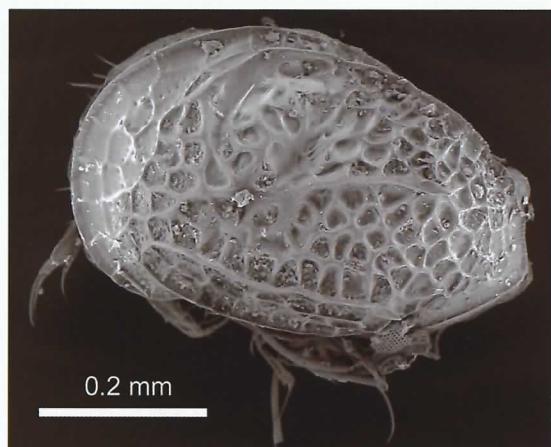
はじめまして。4月より沿岸域環境科学教育研究センター合津マリンステーションの教育関係共同利用拠点の特任准教授として、熊本大学合津マリンステーションに勤務することになりました田中源吾（たなかげんご）です。地質学と進化古生物学、特に地層中に保存された節足動物化石を用いた機能形態や古環境の復元を専門としています。



出身は愛媛県宇和島市で、大学・大学院・ポスドクの間に、島根、静岡、金沢、京都、レスター（英国）を転々とし、その後、群馬県立自然史博物館に5年、海洋研究開発機構に1年、勤務しておりました。大学では島根県の宍道湖・中海・美保湾の表層堆積物を調査し、内湾や汽水域に生息する1ミリ以下の微小な甲殻類「オストラコーダ」（和名：ソコカイミジンコ）の分布と環境との関係について研究をおこないました。大学院では主に西太平洋地域のオストラコーダの分類について学び、上天草市湯島の更新世の地層から新種のオストラコーダの記載をおこなったり、三角で現生のオストラコーダを採集したりと、天草地方をフィールドとした時期もあります。博士論文はオストラコーダの眼の機能形態について執筆しました。幼少の頃より、化石採集が好きで、故郷の山や海を歩き回ってきました。天草地方は段々畑やリアス式海岸が広がり、故郷に帰ってきたような感じがします。天草も宇和島もともに中生代後期の化石が産出するのには、深い因縁さえ感じます。ともあれ、合津マリンステーションは私にとって、何より楽しくて贅沢な勤務地です。

今後は、これまでの経験を活かし、教育関係共同利用拠点の課題：「有明海・八代海の広大で多様な干潟・浅海域と、そこに対する豊かで特徴的な生物との実体験を通して、海洋環境に関する科学的な理解と関心を育て深める教育拠点」に尽力する所存です。

天草地方は日本で有数の化石の産地のみならず、陸域～深海域で堆積した、さまざまな地質現象を観察できる地質学のホットスポットです。天草地域の地質学的遺産を活用するために、地質調査をおこない、どこにどのような化石・地質現象がみられるのかを詳細に把握しておく必要があります。しかし、私の力だけでは到底達成できませんので、地球環境科学講座の先生方、御所浦白亜紀資料館の学芸員の方々、そして天草ジオパーク推進室の皆様の御協力を仰ぎ、調査・研究を進めてゆきたいと思います。地質学的タイムスケールも視野に入れた「実体験を通して、海洋環境に関する科学的な理解と関心を育て深める」教育拠点の形成に邁進してゆく所存です。まだまだ未熟な私ですが、今後とも、御指導・御鞭撻の程、どうか宜しくお願ひ申し上げます。



オストラコーダ

活躍が期待される新実習調査船 「ドルフィン スーパー チャレンジャー」

熊本大学が新造した沿岸環境先端教育研究用実習調査船「ドルフィン スーパー チャレンジャー（谷口功学長が命名）」は、平成26年8月29日に納品され、9月3日に竣工式を迎えました。現在、操縦訓練とシステム調整をしています。

有明海・八代海は、人為的影響を受けやすい閉鎖性内湾です。国内最大の干潟が広がり、底質も沿岸（泥）一湾央（砂）一湾口（露岩・礫）と多様です。絶滅危惧種を含む、国内で無二の生物相は国際的にも価値が高く、生息環境の正確な解析には、異なる学術分野を統合した多面的研究と先端的教育が必要です。

新船の設計を担当した秋元和實准教授（沿岸域環境科学教育研究センター）は、最先端の統合型教育研究を可能にする設備と性能を検討しました。新たな設備は、浅海を安全に航行するために周辺の海底を詳細に観察するソナー、潮流や風の影響下でも環境測定

や試料採取を可能にするDGPSと複数の推進機による定位保持、最新の精密測定機器用のインバーター制御発電機、ロボットや試料採取機器用の特殊な昇降装置、バクテリアや環境攪乱化学物質の試料を保存する冷蔵冷凍庫です。安全のために、船長と乗船者が緊密に連絡できるように研究室と操舵室は連続した配置であり、会話を妨げないように機関室の壁は防音であり、窓の結露による視認性が低下しないように空調しています。

船名は、歴代の実習船「ドルフィン」で得られた成果を基に、世界で注目される教育研究を推進する気持ちを表しています。学内外の研究者との共同運用による有明海・八代海の調査は、環境科学分野の先端的研究にとどまらず、台風常襲地域で多発する高潮などの海象災害の防災に向けた行政の意志決定に対する高度な技術的アドバイスなどに反映させることも期待されます。



↑船体：纖維強化プラスチック、全長（登録長）：16.60m（14.16m）、全幅（登録幅）：3.80m（3.48 m）、全深（登録深）：1.69m（1.01m）、総トン数：9.7トン、主機関：ディーゼル1機1軸、推進装置：固定ピッチ3翼プロペラ、連続定格出力/回転数：423キロワット（575馬力）/2,048毎分回転、燃料：軽油（1,700L）、巡航速度：22.5ノット、スラスター：2台（船首・船尾）、旋回径：3.5挺身以下、定位保持：半径3m以内、定員：30名

→竣工式 向かって左から、逸見泰久沿岸域環境科学教育研究センター長、谷口功熊本大学学長、川端佑樹上天草市長



「拠点形成研究」がスタート

沿岸域センターの教員を中心とした学内プロジェクト「閉鎖性海域における豊かな自然環境・社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」（代表：逸見泰久センター長，2014～2016年度）が始まりました。



拠点形成研究プロジェクトは、「熊本大学の研究のうち、社会的要請の高い分野、学際的分野、社会のあるいは学術的に高く評価されている分野を拠点として選定することで、大学全体の研究力強化に資すること」を目的としています。特に、我々のグループでは、「閉鎖性海域が抱える環境・防災および地域社会形成に関する緊急・重大な課題に応えること」を目的としています。そのため、「学際的・複合的で広範な研究分野で、『豊かな自然環境・社会環境の創生』を目指すため、より先端的な研究・教育の推進と、豊かな地域環境の創生に向けた技術開発・社会政策に貢献する」つもりです。

3年間の短い期間ですが、河川・沿岸環境の健全なマネジメントを目的に、「人間生活と共生した河川流域・沿岸環境の再生・創生」を目指す新たな学問領域の拠点形成を図り、同時に、インフラ整備が急速に進みつつある東アジア地域などにも貢献したいと考えています。

合津マリンステーションの研究宿泊棟が改修されました

附属施設・合津マリンステーション（上天草市松島町）の研究宿泊棟（3階建、1971年建設）が大幅に改修されました。

研究宿泊棟は、研究施設（研究室・実験室）と宿泊施設（宿泊室、食堂・厨房、浴室など）を備えた建物で、主に学内外の研究者・学生や小中高校生・教員等に使われてきました。しかし、築40年以上が経過したこと、いろいろな面で不都合が生じていました。今回の改修では、耐震補強を行うとともに、利用者が快適に過ごせるように部屋の配置なども大きく変更しました。

まず、1階については、厨房を対面キッチンとし、食堂と連結しました。また、安全性を考え、調理器はすべてIHにしました。浴室は男女各5台のシャワールームに変更しました。また、外来者用の研究室を2部屋配備しました。2階は、教員・学生の研究室・実験室のままであるが、男女トイレをシャワー付にしました。3階は、和室を撤去し、2人用（ベッド2台）の宿泊室を2部屋、6人用（2段ベッド3台）の宿泊室を7部屋配備しました。これにより、宿泊可能な人数が1名増え46名になりました。

教育拠点施設に認定されたこともあり、今後、より多くの方に利用されることを期待しています。



大幅に改修された研究宿泊棟(右)

退任のご挨拶



碧天高く薄雲たなびく候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私こと、この3月31日をもちまして定年退職いたしました。1974年に工学部の助手として奉職以来2001年までの26年間は工学部に、

2001年から2014年までの14年間は沿岸域センターに所属しました。学生時代も含めると46年もの間、熊大に通つたことになり、今更ながら長い期間であったと感慨深いものがあります。

海岸環境工学分野を専門として、海岸の保全と防災に関する基礎研究から、環境評価と環境再生に関する技術開発、および環境と防災の調和等に関する応用研究まで広範に行ってまいりました。工学部および沿岸域センターでの在職期間を通じて、研究中心の仕事に携わる事ができましたこと有り難く思っております。ことに、2001年に全学共同施設として新設された「沿岸域センター」の設置に深く関わり、唯一の工学系教員として、センターの研究教育活動に携わり、発展に貢献できましたことは個人的にも1つの誇りであります。現在、合津マリンステーションが全国共同利用施設に認定され、新たに調査船「ドルフィンSC」が配備されるなど、沿岸域センターの

更なる教育・研究活動と社会貢献が期待されていることは、真に感慨深いものがあります。

奉職の間には、1999年9月の「不知火海高潮災害」や2000年冬の有明海ノリ不作に端を発する「有明海・八代海の環境問題」など数々の地域社会の「環境と防災」問題にかかわり、多くの経験と教訓を得てきたことは、後の地域社会貢献への大きな財産となっております。今日まで大過なく仕事を果たす事ができましたのも、ひとえに多くの皆様方のご厚情とご支援によるものと心から感謝いたしております。改めまして厚くお礼申し上げます。

退職後は、現在進行中の「八代海再生プロジェクト」研究の特任教授として勤務とともに、国（環境省、国土交通省など）の「有明・八代海等再生」委員会等を通じて「海の再生」やNPO活動（みらい有明・不知火）など、「やり残していること」、「やらねばならないこと」に専念できることを楽しみに過ごして参りたいと思っております。

今後におきましても、変わらぬご指導、ご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈りし、沿岸域センターの教育・研究、地域社会へのより一層の貢献を期待致しまして、退任のご挨拶とさせて戴きます。

滝川 清

お 知 ら せ

市民公開講座

「海の生き物と化石の観察会」のご案内

今年の市民講座は、体験実習を中心に、熊本県水産研究センターと共催で実施します。観察会を通して、干潟沿岸域の環境について皆さんと共に考えたいと思います。皆様の参加をお待ちしています。

日 時：2014年10月8日(水)、9日(木)
定 員：両日とも、それぞれ25名(先着順)。2日間
参加の場合、合津マリンステーションに宿泊も可能(実費徴収)

場 所：上天草市(集合から解散まで貸切バスにて移動)

参加費：無料
スケジュール

10月8日

熊本県水産研究センター見学

化石の採集と観察I

ハクセンシオマネキの行動観察II

(宿泊者は引き続き、ハクセンシオマネキの行動観察I)

10月9日

有明海・八代海の環境についての解説

化石の採集と観察II

ナメクジウオ飼育個体や海岸動物の観察

ハクセンシオマネキの行動観察II 体験実習

申し込み

9月19日(金)までに、電話、ファックス、電子メールのいずれかにて下記にお申し込みください。

ファックス、電子メールの場合、〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、受講希望日をご記入ください。

問い合わせ先

〒860-8555 熊本中央区黒髪2-39-1

熊本大学自然科学系事務ユニット

研究センター支援担当 中島・和田

TEL:096-342-3143(直通)

FAX:096-342-3010

E-mail:szk-center@jimu.kumamoto-u.ac.jp

連絡先：〒860-8555 熊本中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

事務連絡先：熊本大学教育研究推進部自然科学系事務U

TEL: 096(342)3143 FAX: 096(342)3010

HP : <http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>